

私自身は図書館を活用してきたほうだが、学校の図書館は生徒に活用されていたとは言えなかった。私が生まれた益田市には大きな書店がありそこでよく立ち読みをしていたし、市の図書館にもよく行き、本を借りていた。私にとって本と図書館は外に開いた窓のような存在だった。

4年前の平成19年4月に知事になって、ある県議さんから学校図書館の充実が必要性だと言われたが、学校図書館は活用されていないという意識があったので、あまり気乗りはしなかった。

同じ年の秋の議会で、同じ議員さんから質問があり、やりとりの最後に一度学校図書館を見に行ってみましょうと答弁した。

それで年が明け2月、松江市の城北小学校を朝の8時過ぎに訪問したところ、子どもたちが本を借りるため図書館の中に長い行列ができていて、私が持っていたイメージと随分違うことになっていると思った。学校図書館が変わってきているという強い印象を持った。



そこで県教育委員会とも議論しながら図書館の利用の実態について聞いてみると、図書館の充実度、整備のレベル、子どもたちの活用の仕方、市町村の対応等により県内に差異があるということがわかった。また、県教委として市町村に対して図書館の充実をお願いしているが、なかなか進まないという話もあった。

学校司書が児童生徒のためには必要であるし、司書教諭は教育の面で大きな役割を果たす。私は県全体として図書館のレベルが上がるようにするためには県が一定の支援をしてはどうかと県教委に伝えた。

平成20年の秋から年末にかけて県教委と総務部と一緒に、支援のためにはどういうやり方が良いのか勉強をして、いろいろな事業の案を作った。何度か議論をした末に、これでいいという案を平成21年度の予算に反映させた。

学校司書は当時県内で96校、配置率は3割弱だった。フルタイムを一気に配置するというのは難しいので、3タイプをつくってどこの学校にも何らかの形で配置されるようにしようとした。また司書教諭を養成する予算も組んだ。これが学校図書館充実の事業をはじめたいきさつである。

平成21年9月には小金井にある学芸大学で開催された学校図書館活用教育フォーラムで報告をした。そのとき、自分としては必要なことをやれる範囲内でやったという考えでいたので、いろんな方から良い取組をされているということでほめられて、びっくりしたというのが率直な感想だった。

その後も松江市の揖屋小学校に授業を見に行ったり、シンポジウムなどにも出たりして知識を増やしていった。

初年度には学校の整備をするところに一定の補助をするという事業を始めたが、整備のビフォー・アフターの様子を県教委がDVDにした。そこには先生達を始め、保護者や地域の方々が一体となって図書館の改造に取り組む姿が映っており、地域全体が子どもの教育に関心を持って手伝うということを広めていくことが大切だと感じた。

そうしたことを各市町村の担当の方々が見ることによって、図書館の有用性、重要性を感じることができると思い、そのDVDを配るように指示をした。

私もはじまりはそうだったが、外からの刺激があると動かされる。学校の現場で起こっている良いことについては、こういうことをすればよくなるんだと幅広く多くの人に知ってもらおうということがとても大事ではないか。そういうことがものを動かすエネルギーになるのではないかなと思う。

平成22年度には図書が足りないということで、6000万円ぐらいをかけて図書2000冊を12組、各地に寄託をすることを始めた。司書教諭の研修の強化のための予算も計上した。また、平成23年度は高校について学校司書の未配置校に配置を進め、あわせて特別支援学校にも図書館環境整備員を配置した。

今後の課題として、学校司書とボランティアでは役割が異なることから、学校司書の配置が進むよう引き続き市町村に対して働きかけをしていきたい。学校司書の配置は先ほども申しあげたように3タイプあって、それぞれにかかる経費が違う。そのどれを選択するかは市町村が決め、決めたものに対して支援をするということになっているので、市町村の理解が進むよう働きかけをする必要がある。



司書教諭については学校の図書館活用について大きな役割を担っていることから全小中学校に配置できるように、引き続き養成に努めていく必要があると思う。

保護者地域社会の協力ということでは、子どもに読書をすすめるだけではなくて、大人も一緒になって本を読む、子どもに本を読んで聞かせるというように大人もそういったプロセスに参加していくことが大切だ。実際に活動状況をみてもらうといったことも必要であるし、また整備などでき

ることで学校図書館を応援していくことも求めていきたい。

それから学校全体として図書館を活用するという体制が必要である。そのためには校長先生をはじめとして、全体としてみんなで協力をする、あるいは校長先生がリードするといった体制をつくる必要があると思う。また、県市町村との協力といったことでは県もやっていくし、市町村にもお願いをしていくということが必要だ。

子どもたちに未知なるものへの関心を引き起こし、自分の世界やものの見方を広げてくれる本に出会うことは、子どもが心豊かに成長する上で、たいへん大事なことだ。そして子どもたちがそうした本に出会う環境をつくることは、私たち大人の仕事だ。

子どもの読書活動が進むように今後とも一生懸命みなさんとともに活動していきたいと思う。よろしくお願い申しあげたい。

